



#### 値上げ

- ・住化アクリル販売が、PMMA(メタクリル樹脂)シートを5月15日出荷分より値上げ
- ・住友大阪セメントが、建材事業における取り扱い商品(ジェットコン、無収縮モルタル、補修材、膨張材、その他製品)を6月1日より値上げ
- ・アイカ工業が建装建材商品を7月2日出荷分より値上げ



#### ◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーケティンラボ』を新設しました

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

#### ----- WEEKLY NEWS -----

#### ◆電子材料:大阪有機化学工業が半導体関連材料の新規設備を建設

(5月1日)

大阪有機化学工業は、金沢工場における半導体関連材料の新規設備の建設等を決定したと発表した。

中長期的に見込まれる半導体の市場需要に対応することを目的としており、半導体関連材料の研究開発・製品分析のための分析装置購入や研究棟の増築工事も計画している。

設備投資額は20億円で、2018年5月に着工し、2019年3月に完成、2019年6月に操業を開始する予定としている。

#### ◆プラントエンジ:日揮がカナダで大型 LNG プラント建設プロジェクトを受注

(5月1日)

日揮は、LNG カナダ社がカナダのブリティッシュコロンビア州で計画する大型 LNG プラント建設プロジェクトに関し、米国フルア社と共同で受注することが内定したことを発表した。

契約先の LNG カナダ社はシェル社 (50%)、中国石油 (20%)、韓国ガス公社 (15%) および三菱商事 (15%) で構成されるジョイントベンチャーであり、契約形態はランプサム契約である。今回の契約は、年産 650 万トン以上×2 系列の天然ガス液化設備、ガス貯蔵設備、および LNG 出荷施設に係る設計・調達・建設工事 (EPC) 役務 (天然ガス液化設備を将来 4 系列に増設するオプション契約も含む) である。

日揮は、世界の LNG プラント全生産量のうち、約 30% の LNG プラントの建設実績を有しており、今後も LNG プラントのトップコントラクターとして積極的な営業活動を展開するとしている。

◆農薬: BASF がバイエルの種子と農薬に係る事業・資産を追加で買収することで合意 (4 月 27 日)

BASF は、2017 年 10 月にバイエルとの間でグルホシネート・アンモニウムを用いた非選択性除草剤のグローバル事業、特定の市場の主要な畑作物の種子事業、これらの作物に関する形質研究および育種技術、LibertyLink の技術と商標の買収で合意しているが、これに加え、バイエルがモンサント買収の計画の一環として売却する事業と資産を追加して買収することで同社と合意したことを発表した。

新たに追加されたのは、Nunhems ブランドで世界的に販売されているすべての野菜種子事業、Poncho、VOTiVO、COPeO、ILeVO の各ブランドで販売されている種子処理製品、小麦交配種の研究開発プラットフォーム、最新のデジタル農業プラットフォームである。この取引にはバイエルのオーストラリアにおける菜種事業、主に非農耕地で利用される欧州における特定のグリホセートを用いた除草剤、キャノーラ品質カラシナの研究、特定の非選択性除草剤と殺線虫剤研究プロジェクトが含まれる。

前回の合意に基づく買収金額は 59 億ユーロで、追加の事業と資産の買収金額は 17 億ユーロとなる。2017 年通期における今回買収する事業のバイエルにおける売上高は 7 億 4500 万ユーロで、前回と今回買収するすべての事業の売上高は 22 億ユーロになるとしている。

◆電子材料: 日本カーバイド工業が空中ディスプレイ用リフレクターの量産を開始 (4 月 27 日)

日本カーバイド工業は、5 月より空中ディスプレイ用リフレクター「NIKKALITE

RF-AC」の量産を開始することを発表した。

同社は、道路交通標識やカーライセンスプレートに使用する再帰反射シートの事業を展開しており、この技術を応用して空中に画像を表示させる空中ディスプレイ用再帰反射材の開発・販売を行っている。

これまで同社は、「NIKKALITE RF-AN」を第1世代製品として販売してきた。第2世代製品となるRF-ACは、従来のRF-ANと比べて解像度を1.7倍、輝度を10%向上させたハイグレード品である。今後、空中ディスプレイは、アミューズメント機器などのエンタテインメント分野、広告などのデジタルサイネージ分野などへの活用が期待されるとしている。

◆フィルム：ユニチカがインドネシアでナイロンフィルムの生産設備を増設  
(4月26日)

ユニチカはインドネシアにおけるナイロンフィルム製造・販売子会社であるエンブレムアジアに新工場を建設し、ナイロンフィルムの生産設備を増設することを正式に決定したことを発表した。

増設後の生産能力は、年産16,500トンから年産26,500トンとなり、同社グループ全体では年産41,500トンから年産51,500トンとなる。

今回のエンブレムアジアにおける新工場の投資額は約60億円で2020年11月に稼働開始を予定している。

同社では、生産設備の増設は食品包装用途を中心としたグローバルマーケットの需要拡大に対応し、更なる事業拡大に向けて実施するものとしている。

◆樹脂：三菱ガス化学が特殊ポリカーボネート製造プラントを増設(4月26日)

三菱ガス化学は、特殊ポリカーボネート「ユピゼータEP」の製造プラントを鹿島工場(茨城県)に増設することを決定したと発表した。

スマートフォンやタブレット等に搭載される高機能小型カメラのカメラレンズ材料には、高屈折率(レンズの薄型化に寄与)と低複屈折性(画像の鮮明化に寄与)を兼ね備えた材料が必要となる。同社の特殊ポリカーボネート「ユピゼータEP」はこれらを高い次元で両立し、さらに成形性も兼ね備えた光学材料で、特にスマートフォンにおいては、その薄型化に大きく寄与する欠かせない材料となっている。

新しいプラントの生産能力は、現在の生産能力3,000トン/年から2,000トン/年を増強し、計5,000トン/年となる。営業運転は2019年10月に開始予定としている。

◆ゴム：日本ゼオンが特殊架橋タイプ水素化ニトリルゴムを増産(4月26日)

日本ゼオンは、特殊架橋タイプ水素化ニトリルゴム（以下、特殊架橋タイプ Zetpol）の事業拡充に向け、同社川崎工場の乾燥能力を増強することを決定したと発表した。完工時期は 2019 年 9 月を予定している。

水素化ニトリルゴム（以下、Zetpol）は、耐油性の高いニトリルゴムを水素化することにより耐熱性を高めた特殊ゴムで、高岡工場（富山県）、川崎工場（神奈川県）、Zeon Chemicals L.P.テキサス工場（米国）の 3 拠点で製造している。このうち川崎工場では、旧来の Zetpol より耐熱性を 10℃以上向上させた特殊架橋タイプ Zetpol を生産している。

特殊架橋タイプ Zetpol は主に自動車の重要保安部品に採用が進んでおり、本増強は需要増に対応するものとしている。

◆炭素繊維：帝人が中国および台湾に現地法人を設立（4 月 24 日）

帝人は、中国と台湾に、炭素繊維の市場開拓および販売を手掛ける現地法人を設立すると発表した。

中国、台湾、および東南アジア地域では、経済成長などに伴ってスポーツ・レジャー向けの消費が伸びており、炭素繊維を使用したハイエンド用品の需要が拡大している。こうした中、同社は 2002 年 12 月に上海、2014 年 4 月に台湾に駐在員事務所を開設し、現地における炭素繊維市場拡大の可能性を調査してきたが、今回、営業機能を付与することで拡大する需要に迅速に対応するとともに、新規顧客の獲得や用途開拓の推進、現地のニーズに沿った的確なソリューション提供などを可能とするため、現地法人を設立することにした。

帝人グループは、中国、台湾での現地法人設立により、既に営業活動を展開しているテイジン・カーボン・シンガポールと連携し、顧客対応力を一層強化していくとしている。

◆樹脂：BASF が韓国でウルトラゾーンの新製造ラインを稼働（4 月 24 日）

BASF は、韓国・麗水の拠点で、高い耐熱性を持つ熱可塑性プラスチックである Ultrason（ウルトラゾーン、ポリアリールスルホン樹脂）の新製造ラインを稼働させたと発表した。

ウルトラゾーンは、エレクトロニクスや自動車、航空宇宙産業などにおける耐熱軽量部品の製造に幅広く使用されており、特性が変化することなく最高 220℃までの熱に耐えられるほか、優れた化学的安定性を備えている。

今回の新ラインにより、ウルトラゾーンの世界全体での年間製造能力は 6,000 トン増加の計 24,000 トンとなり、世界的に拡大する市場の需要に応えていくといる。

◆樹脂加工品：クラボウが高機能樹脂加工品の生産・開発・営業拠点の新棟を竣工（4月24日）

クラボウは、熊本事業所（旧 熊本開発センター）の新棟が完成、操業を開始し、竣工式を行ったと発表した。

熊本事業所では平成24年から、半導体製造装置に使用される耐薬品性に優れた高機能樹脂加工品の生産・開発・営業を行っている。今回の新棟建設・増床により、最新のクリーンルームや高機能樹脂の各種加工設備、評価・分析関連装置などを導入するとともに人員の増強を行い、生産・開発体制において能力強化を図った。

新棟の投資額は約6億円であり、本投資により、今後、市場拡大が見込まれる半導体製造関連分野における高機能樹脂加工品の販売を拡大していくとしている。

◆二次電池：積水化学工業が住宅向けフィルム型リチウムイオン電池の生産能力を増強（4月24日）

積水化学工業は、連結子会社のエナックス中部事業所において、約40億円を投じて、住宅向けを中心としたフィルム型リチウムイオン電池（以下、「フィルム型LiB」）単電池の建屋・生産設備を増設して、生産能力を増強することを決定したと発表した。

積水化学工業は2017年に住宅向けフィルム型LiBを発売し、事業を開始した。同品は、京セラが販売する住宅用蓄電システムを構成する電池ユニットに搭載され、同システムをセキスイハイム商品に採用している。2019年には、FIT（再生可能エネルギー固定価格買取制度）の適用が終了するPV（太陽光発電システム）搭載邸が生じ始め、以降増加が見込まれることから、PVで発電した電気を有効活用するために蓄電池の需要が拡大することが予想されている。

増強する生産設備の稼働は2019年度下期を予定しており、稼働後のフィルム型LiBの生産能力は、約1万棟分となる。

また、住宅向けフィルム型LiB単電池生産機能のエナックス中部事業所への集約とあわせて、積水化学のつくば事業所では、車載向けフィルム型LiBの開発体制を整備・強化していくとしている。

◆エラストマー：東亜合成がタイにエラストマーコンパウンド工場を建設（4月23日）

東亜合成は、タイ子会社であるトウアゴセイ・タイランドの第2期プロジェクトおよび子会社のアロン化成がタイに販売会社を設立することを決定したと発表した。

トウアゴセイ・タイランドは2016年8月に設立され、現在、第1期プロジェクトとして、アクリルポリマー工場の建設工事を今年6月総業開始予定で進めているが、第2期プロジェクトとしてアロン化成の製品であるエラストマーコンパウンド工場を建設することを決定した。投資額は約15億円、2019年内に操業開始を予定している。

また、トウアゴセイ・タイランドの第2期プロジェクトの決定に伴い、エラストマーコンパウンド製品のアジアでの拡販・事業基盤強化を図る為、アロン化成の子会社としてタイに販売会社を設立することを併せて発表した。販売会社の資本金は21百万バーツ(約72百万円)、2018年11月に営業開始の予定としている。

◆価格改定

- ・宇部興産は、国内市場向けの1,6ヘキサンジオールを5月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、20%以上
- ・住化アクリル販売が、PMMA(メタクリル樹脂)シートを5月15日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、15%
- ・住友大阪セメントが、建材事業における取り扱い商品(ジェットコン、無収縮モルタル、補修材、膨張材、その他製品)を6月1日より値上げ  
値上げ幅は、10%以上
- ・アイカ工業が建装建材商品を7月2日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、5~15%



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

